

山と博物館

第47巻 第5号 2002年5月25日

市立大町山岳博物館



オオルリシジミ

写真と文 清水 博文

オオルリシジミは、名前のとおり翅の表がルリ色をしたシジミチョウで、五月末から六月中旬、このチョウの食草であるクララというマメ科の多年草の花穂が伸び出す頃に羽化します。環境省のレッドデータブック（一九九七年）では絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種）生息個体数が減少して何らかの処置をしないと近い将来絶滅の危険性が極めて高い種に指定されています。

本種はかつて大町市付近では南・北安曇郡の山麓地域に局所的に生息していましたが、近年は人の手により保護監視されている限られた地域などしか姿をみることができなくなっていました。大町市では一九五〇年ころまで生息していたと大町市史（一九八四年）に記録されておりますが、その後の記録はありません。現在は残念なことですがクララの自生地があっても、この美しいチョウの姿はありません。

本種は、人の手が入られた草地や田畑の畦とその周りを中心に生息していましたが、ゴルフ場などの開発や、圃場整備、草地の森林化などにより生息できる環境が変化したりしたため個体数が減少し、稀少種となるとそこに採集者などが集まり、さらに圧力が加わった結果、現在は全国的にみても本州（長野県と新潟県との境付近や長野県の東部など）と九州の一部にしか残っていません。

このように本種をはじめとする里山とそのまわりにすむチョウのほか、メダカやゲンゴロウ、タガメ、ゲンジボタルなど今まで普通に見ることができた種がいつの間にか姿を消してしまったりすることが身近な環境で起きています。

（大町山岳博物館学芸員）

信州の高山性トンボ

枝重夫

本州の高山性トンボは14種

鹿野忠雄(一九二九)は「高山性蜻蛉」として、タカネトンボ、カオジロトンボ、*Eallagma cyathigerum* (エゾイトトンボ?)、(オオ)トラフトンボ、カラカネトンボ、ホソミモリトンボ、オオルリボシヤンマ、ムツアカネの八種を提唱した。その後、朝比奈正二郎(一九五四)は「本州産高山蜻蛉類」として、カラカネイトトンボ、ルリイトトンボ、ルリボシヤンマ、カラカネトンボ、オオトラフトンボ、ホソミモリトンボ、エゾトンボ、ムツアカネ、カオジロトンボの九種を選んでいる。さらに枝重夫(一九七七)は、「信州の高山性トンボ」を発表しているが、この中で高山性と「性」を入れ、先の鹿野の表現に戻した。その理由は、これらのトンボが本州だけに限っても低地に生息することがあるため高山性という言葉に幅をもたせたいことであるが、「性」を挿入して「ざん」と「とん」を分離し、発音上「びびき」をよくしたいという意図もある。またこの報告の中で、オゼイトトンボ、アマゴイルリトンボ、キバネモリトンボの三種を追加し、先に鹿野が挙げたエゾイトトンボ、オオルリボシヤンマの二種も認めてもいいのではないかとした。キバネモリトンボは典型的な高山性トンボなのに朝比奈の選択から漏れたのは、その時点では本州からは発見されていなかったからである。しかしその後、青森県(一九五三)、新潟県(一

九五五)、岩手県(一九六五)、山形県(一九八四)から記録されている。さらに枝(一九九六)は、上高地付近の高山性トンボ八種を概説した際に、エゾイトトンボとオオルリボシヤンマを高山性トンボとして正式に認めた。したがって以上を合計すると、本州の高山性トンボは一四種になる。

信州の高山性トンボは12種

長野県にはこれら一四種のうち、カラカネイトトンボとキバネモリトンボを除く一二種が分布しているのので、それぞれの種名を掲げて解説する。

一、エゾイトトンボ

Agrion lanceolatum Selys

東シベリア、朝鮮半島、サハリンを経て、北海道には広く分布する。和名はそれに由来している。本州では、東北六県、栃木、群馬、長野、新潟、富山、石川、福井、岐阜の各県に記録がある。前項で鹿野(一九二九)が記録した *Eallagma cyathigerum* がエゾイトトンボであることが確認されたのは四〇年後のことである。現在では、長野県内に飯綱高原、志賀高原、菅平高原、乗鞍高原など約三〇〇の産地がある。

二、オゼイトトンボ

Agrion larne Asahina

一九三五年に朝比奈博士が尾瀬ヶ原で初め



写真1 ルリイトトンボ(オス)



写真2 アマゴイルリトンボの交尾

て発見したのでこの名前がある。日本特産種で、北海道、東北六県、埼玉、茨城、栃木、群馬、長野、新潟の各県に分布している。エゾイトトンボと混生しているが、オゼイトトンボの方がはるかに少ない。長野県では、戸隠村黒姫山麓、大田市居谷里湿原、茅野市蓼科湖、白馬村落倉湿原、豊科町菖蒲池、白馬村親海湿原、明科町デイラボツチ湿原(発見順)のわずか七カ所が知られているだけである。この中で蓼科湖は分布の南限になる。

三、ルリイトトンボ

Eallagma deserti circumatum Selys

(写真1)

日本特産種で、原名亜種 *E. d. deserti* Selys はユーラシア大陸に広く分布する。日本亜種は、北海道、秋田を除く東北五県、栃木、群馬、静岡、長野、新潟、石川、福井、岐阜の各県に知られ、岐阜県白鳥町の村間が

池が南限になる。長野県では、八ヶ岳白駒池、志賀高原、乗鞍高原牛留池、戸隠村種池、八千穂村南池、小谷村蛙池に生息している。

四、アマゴイルリトンボ

Platycnemis echigana Asahina

(写真2)

日本特産種で、一九五二年に新潟県守門岳山麓の雨乞池で発見された。和名はその池の名、種名は越後に由来する。その後、山形県月山南麓、福島県五色沼から発見され、一九七一年には長野県小谷村蛙池に生息することがわかり、第四番目の分布県になった。一〇年後には隣接した角間池にもいることがわかった。長野県二つ目の産地である。現在のところ本種の産地は、山形県八、福島県二〇、新潟県二一、長野県二の合計五一カ所に増えたが、長野県角間池が分布の南限である。

五、ルリボシヤンマ

Aeschna juncea (Linné)

北アメリカ、ヨーロッパ、シベリアなどに広く分布する。日本では、北海道、本州（千葉県を除く）、四国（徳島県だけ）に生息する。長野県では全域におり、長野市篠ノ井のような低地（五〇〇m）から上高地田代池（一五〇〇m）など二〇〇〇mまでの広い垂直分布を示す。次のオオルリボシヤンマと混生するが、産地は比較的少なく、小さい池や湿地を好み、日陰に見られることが多い。

六、オオルリボシヤンマ

Aeschna nigrofava Martin

日本特産種で、北海道、本州、九州（佐賀、長崎両県を除く）に分布し、鹿児島県霧島山が南限である。ルリボシヤンマより低地にまで生息する傾向が強い。大きく開放的な湖沼を好み、長野県ではルリボシヤンマよりはるかに産地が多く、個対数も多い。しかし上高地田代池では逆で、オオルリボシヤンマの方が稀である。

七、オオトラフトンボ

Ephippa bimaculata sibirica Selys

原名亜種 *E. b. bimaculata* Selys はシベリア西部からヨーロッパに分布するが、本亜種はシベリア東部から中国東北部、サハリンを経て北海道、本州に達している。本州では、岩手県を除く東北五県、群馬、栃木、神奈川、山梨、長野、新潟の各県に分布する。南限は一九九四年に発見された神奈川県芦ノ湖ではない。長野県では、安曇村上高地（最近の記録は八千穂村雨池、松本市栗和田池、大町市木崎湖、同中綱湖、同居谷里湖、小谷村蛙池、同鎌池、岡谷市諏訪湖、茅野市白樺湖、同雨池、同七ツ池、同白駒池、同蓼科湖、高遠町千代

田湖、上田市砂原池、同赤坂大池の合計二〇の産地が記録されている。

八、カラカネトンボ

Coenobasis aenea amurensis Selys (写真3)

原名亜種 *C. a. aenea* Selys はシベリア西部からヨーロッパ各地に分布しているが、本亜種は、シベリア東部、中国東北部、朝鮮半島、北海道、本州に生息している。本州では東北六県、栃木、群馬、長野、新潟、富山、石川、福井、岐阜の各県から記録されている。南限は岐阜県白鳥町村間が池である。長野県では、八坂村唐花見湿原（九〇〇m）から八ヶ岳七ツ池（二二〇〇m）までの垂直分布をもっており、志賀高原の各池、八ヶ岳の白駒池、同双子池、奈川村白樺峠の池、乗鞍高原牛留池、上高地田代湿原、小谷村蛙池、霧ヶ峰などに生息している。

九、エゾトンボ

Somatochlora v. viridicaena (Uhler)

本種は北海道と本州の東北地方や中部の山地に分布する後翅長が四〇mm以下の小形のもので、本州の低地や四国、九州にいる後翅長が四〇mm以上の大形種は別亜種のオオエゾトンボ *S. viridiana atriventris* Selys として区別されてきた。しかし両者間には大きさを以外の外部形態などに明確な差異が認められないので、最近では同一種とみなされている。ところが北海道や青森県恐山、群馬県富士見峠で採った個体はすべて小形で、茨城県や千葉県平野部のものは大形であり、長野県各地産のほとんどの個体は小形である。とくに安曇村内では、上高地田代池、乗鞍高原鈴蘭小屋、同番所の池、同あさみ池、同日本一平産の個体はすべてがエゾトンボの範疇に入るものである。両亜種が同一種のエゾトンボとすれば、エゾトンボの小形種が高山性トンボということになる。

一〇、ホソミモリトンボ

Somatochlora arctica (Zetterstedt)

ヨーロッパ北部から中国東北部、シベリアなどに広く分布し、サハリンを経て、北海道と本州に達する。本州では、福島、栃木、群馬、長野、新潟、岐阜の六県に記録がある。長野県では、上高地田代池、八ヶ岳天狗岳、塩嶺峠げいり池、八ヶ岳赤岳、同黒百合平、同双子池、富士見高原、乗鞍高原牛留池、同あさみ池、同日本一平、上高地上湯沢（発見順）に生息している。なお長野県富士見高原が、岐阜県の日和田高原を約八kmおさえて分布の南限となっている。



写真3 カラカネトンボ (オス)



写真4 ムツアカネ (オス)



写真5 カオジロトンボ (オス)

一、ムツアカネ
Sympetrum danae (Salzer) (写真4)

表1 高山性トンボの県別分布

種類	長野 (安曇村)	新潟	岐阜	富山	石川	福井	山梨	静岡	神奈川	群馬	栃木	茨城	東京	千葉	
カラカネイトトンボ		○								○	●				
エゾイトトンボ	○ ○	○	○	○	○	○				○					
オゼイトトンボ	●	○								○	○				
ルリイトトンボ	○ ○	○	●		○	○				○	○				
アマゴイルリトンボ	●	○													
ルリボシヤンマ	○ ○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
オオルリボシヤンマ	○ ○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
オオトラフトンボ	○ ○	○					○		●	○	○				
カラカネトンボ	○ ○	○	●	○	○	○				○	○				
エゾトンボ	○ ○	○	○	○	○		○			○	○	○			
ホソミモリトンボ	● ○	○	○							○	○				
キバネモリトンボ		●													
ムツアカネ	● ○	○	○							○					
カオジロトンボ	○ ○	○	●	○	○	○				○	○				
合計	14	12 (10)	14	9	6	7	6	4	2	3	12	10	4	2	1

(注) ○印：分布 ●印：分布の南限

北アメリカ、ヨーロッパ、シベリアにかけて広く分布し、カムチャッカ、サハリンを経て北海道に達して本州では青森、秋田、岩手、福島、群馬、長野、岐阜、新潟の八県の亜高山に生息する。長野県では、上高地田代池、乗鞍高原番所、八ヶ岳雨池、乗鞍高原牛留池、奈川村白樺峠の池、乗鞍高原キャンプ地入口の池、同あざみ池(発見順)の七カ所で記録されている。その中で八ヶ岳雨池は分布の南限になる。

二、カオジロトンボ

Leucorhina dubia orientalis Selys

(写真5)

原名亜種 *L. d. dubia* Selys はシベリア西部からヨーロッパに分布する。本亜種はシベリア東部、中国東北部、朝鮮半島北部、サハリンを経て、北海道と本州の山地に生息する。本州では宮城を除く東北五県、栃木、群馬、長野、新潟、富山、石川、福井、岐阜の各県に分布している。長野県では、上高地田代池、志賀高原、苗場山、白馬岳、八方尾根、小谷村天狗原、同梅池、乗鞍高原牛留池、同あざみ池に記録がある。分布の南限は岐阜県高根村日和田高原ちんまヶ池である。

高山性と亜高山性のトンボ

本州の高山性トンボ一四種の長野県および周辺の県、さらに関東一都五県における分布をまとめたのが表1である。これら各県の分布状況と長野県内の垂直分布などから、高山性トンボは、カラカネイトトンボ、ルリイトトンボ、オオトラフトンボ、カラカネトンボ、ホソミモリトンボ、キバネモリトンボ、ムツアカネ、カオジロトンボの八種、亜高山性トンボは、エゾイトトンボ、オゼイトトンボ、

アマゴイルリトンボ、ルリボシヤンマ、オオルリボシヤンマ、エゾトンボ(小形種)の六種に細分類することができる。また広義の高山性トンボは新潟県が一四種で、すべてを産し、長野県と群馬県が二種で二番目に多い。なお上高地付近に限ると、括弧内に示したように一〇種を産し、ここは高山蝶ばかりでなく高山性トンボの宝庫でもあることがわかる。(日本蜻蛉学会会長・松本歯科大学名誉教授・環境省希少野生動物種保存推進員)

注 本文は大町山岳博物館編『新・北アルプス博物誌』(信濃毎日新聞社、二〇〇一)の編集時、新たに書き下ろしたいたいたいものです。(編集部)

付属園だより

四月二十九日と五月十四日に相次いで、飼育しているニホンカモシカに赤ちゃんが生まれました。これら二頭の赤ちゃんは、母親の母乳の出が悪い可能性があることから、昨年生まれたカモシカ同様、人工哺乳で育てることになりました。

また、五月十三日、飼育しているシベリアオオヤマネコの赤ちゃんが双子で生まれました。こちらも現在、人工哺乳で飼育中です。

山と博物館 第47巻 第5号

発行 年 二〇〇二年五月二十五日発行
〒 長野県大町市大字大町八〇五六
市立大町山岳博物館

TEL 〇二六-1111-1111
FAX 〇二六-1111-1113

印刷 大系タイムス ㈱

定価 年額 一、五〇〇円(送料共)(切手不可)

郵便振替口座番号 〇五四〇一七三三三三